

若年層（10代・20代）の意見把握について

I. 若年層の意見把握の概要

調査	回答数	概要	若年層の意見
①市民WEBアンケート調査 （第2回委員会報告）	左記①の回答者700人 のうち若年層23人	- 市民の公共施設の利用状況や公共施設マネジメント（再編）に対する意見を把握すること等を目的に実施した。 ※設問は①②で共通	①②のアンケートにおける、若年層（10～20代）の回答を踏まえ、公共施設再編に関する若年層の意見の全体的な傾向を把握した。 ⇒（スライド2～6）
②市民参加型共創プラットフォーム（Liqid）でのアンケート調査	左記②の回答者496人 のうち若年層15人 ⇒①②をあわせて38人		
③第一小学校6年生を対象としたワークショップ	参加者 約130人	第一小学校6年生を対象に、「鎌倉の公共施設の未来」を考える授業（ワークショップ形式）を実施した。	- 小学生が考える「学校施設と複合化することが望ましい施設」に関する意見を把握した。 ⇒（スライド7）
④第一中学校3年生を対象としたワークショップ	参加者 約70人	第一中学校3年生を対象に、生徒が公共施設の現状や課題を調査し、課題解決に向けて提案する形式の授業を実施した。	- 中学生が考える「公共施設の課題解決に向けた対応策」に関する意見を把握した。 ⇒（スライド8）
⑤第一小学校6年生を対象としたアンケート調査	111人	第一小学校6年生を対象に、将来の公共施設に関する意見を把握することを目的に実施した。	- 小学生の公共施設再編に関する意見を把握した。 ⇒（スライド9～11）

若年層（10代・20代）の意見把握について

I. 【まとめ】若年層の意見

調査結果を総合すると、公共施設再編に関する若年層の意見には、次のような傾向が確認された。

■ 複合化・集約化

- ・ アンケート回答者の約7割が手法として肯定。
- ・ 将来の財政制約を前提とした場合、児童の約7割が、数の維持よりも、施設の集約・刷新を選択
- ・ 中学生からは「共用部（廊下・トイレ等）の統合による維持費抑制」、小学生からは「保育園併設や屋内プール化」といった、多機能化による具体的な利便性向上を評価する傾向。

■ 民間活用・デジタル化

- ・ 若年層の8割以上が支持。特に、積極的に実施すべきとの回答が全体平均を約8ポイント上回る。
- ・ 行政窓口や子育て支援機能等を、利便性の高い民間施設等で提供することを肯定的に容認。
- ・ 中学生からは「窓口や図書のデジタル化」により、物理的な建物面積そのものを削減・最適化する提案。
- ・ 未利用地の民間への売却・賃貸等による財源確保の視点も示された。

■ 利便性・地域多世代交流

- ・ 開館時間の短縮への理解度は全体平均より13ポイント低く、約5割。平日日中に制約のある現役世代にとって、利用できる時間の確保が利便性の最優先課題。
- ・ 学校の多機能化による「地域住民との交流」や異年齢児とのふれあいを、生活圏における交流の機会として肯定的に捉える傾向。

■ 防災・安全確保と資産の有効活用

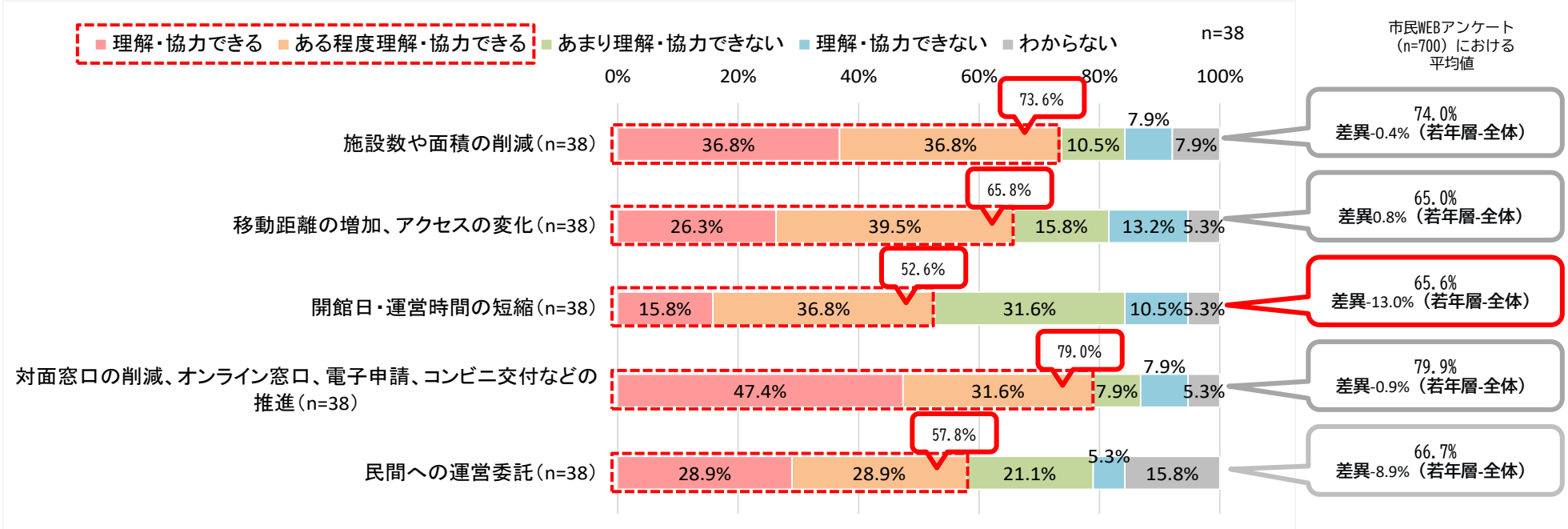
- ・ 小学生の求める機能として「避難機能」が3位。施設の集約・刷新を、地域防災力の強化につながるものと評価している。
- ・ 離れた屋外施設への移動に伴リスク解消に加え、屋内プール化による「熱中症対策」や「リハビリ利用」など、安全かつ効率的に施設の稼働率を高める視点が示された。

若年層（10代・20代）の意見把握について

Ⅱ．市民WEBアンケート調査及びLiqlidにおけるアンケート調査結果（抜粋）（①②）

◆設問10 集約化・複合化に対する理解・協力の度合い

- ・再編に伴う各項目への理解・協力の度合い（「理解・協力できる」及び「ある程度理解・協力できる」の合計）は、全ての項目で過半数を超えており、若年層においても公共サービスの見直しを許容する傾向にある。
- ・特に「対面窓口の削減・オンライン化の推進」については79.0%と高い理解を示しているが、「開館日・運営時間の短縮」については理解度が52.6%に留まり、全体平均（65.6%）と比較して13.0%の大きな乖離が見られる。
- ・平日日中に活動する若年層にとって、「利用可能な時間の確保」が利便性に直結する重要なニーズであることを示唆している。

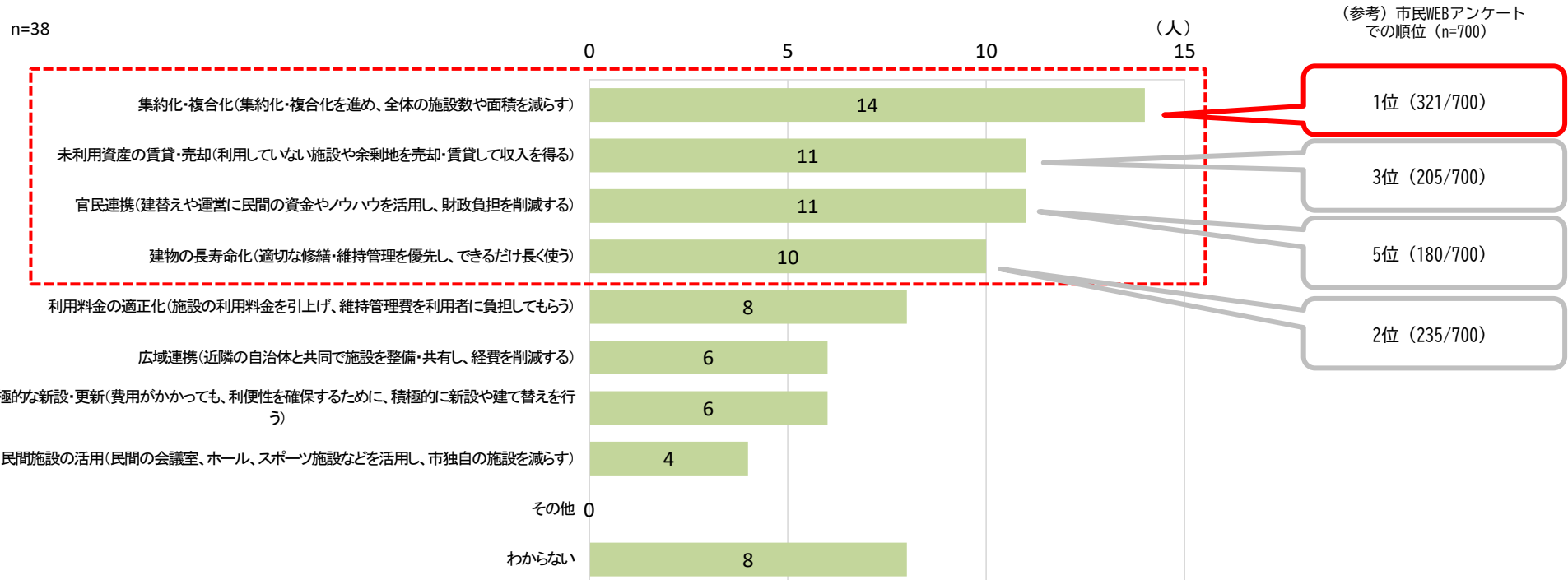


若年層（10代・20代）の意見把握について

Ⅱ．市民WEBアンケート調査及びLiqlidにおけるアンケート調査結果（抜粋）（① ②）

◆設問11 公共施設のあり方に対する今後の手法

- ・若年層（10～20代）適切だと考える手法としては、「集約化・複合化」が最多。次いで「未利用資産の売却・賃貸」「官民連携」「建物の長寿命化」の3項目が、僅差で並んでいる。
- ・上位4つの回答で全体の多くを占めており、これら「集約・売却・民間活用・長寿命化」を組み合わせせた効率的なマネジメントが若年層の認識であることが伺える。
- ・全体調査では5位だった「官民連携」が、若年層ではこれら主要な手法と肩を並べる位置にある点は特徴的である。

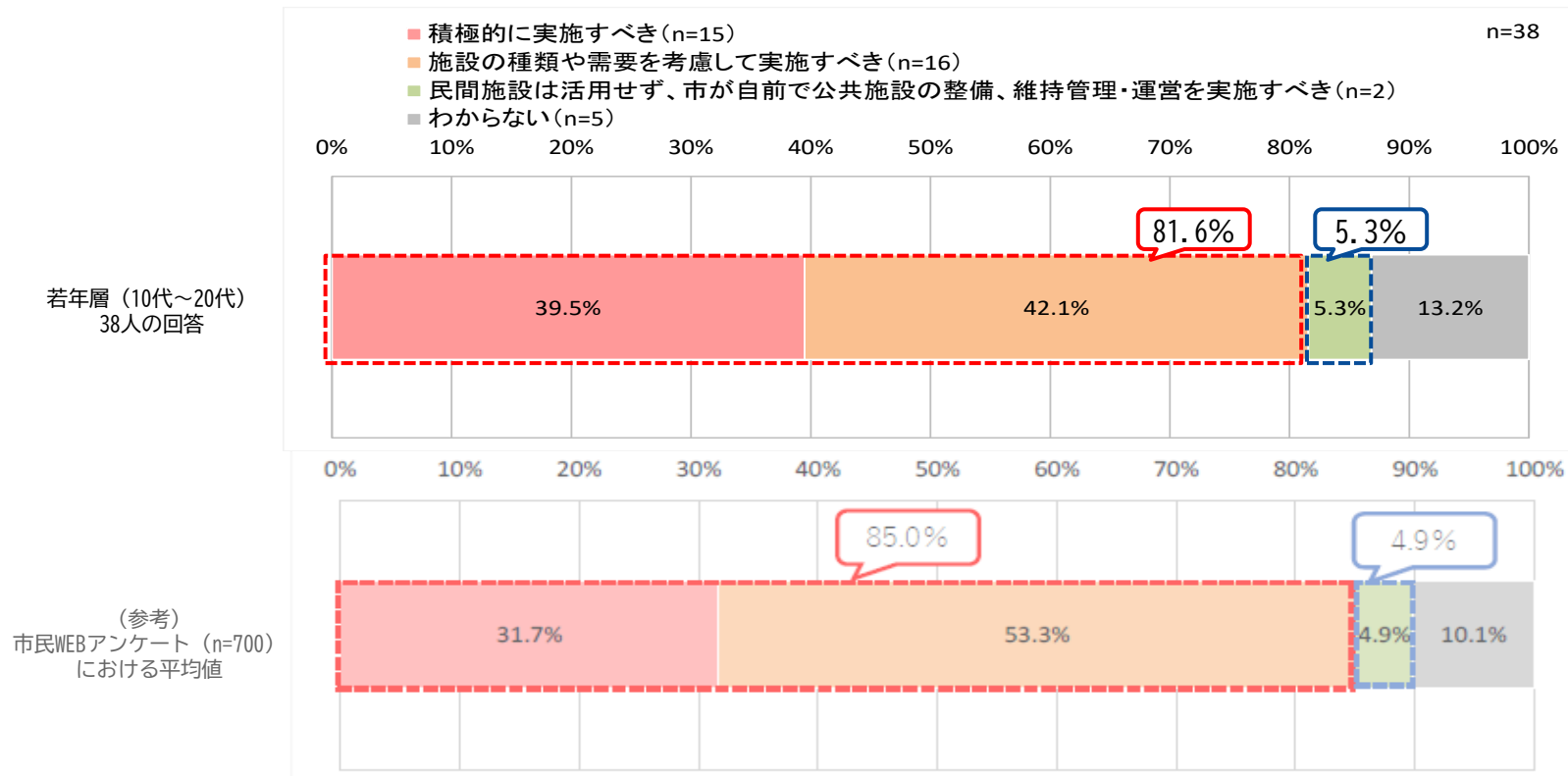


若年層（10代・20代）の意見把握について

Ⅱ．市民WEBアンケート調査及びLiqlidにおけるアンケート調査結果（抜粋）（① ②）

◆設問１５ 民間施設の活用や運営委託を進めることに対する考え方

- ・民間施設の活用や運営委託について若年層の81.6%が肯定的（積極的に＋需要を考慮して）な回答であり、全体調査（85.0%）と同様高い賛成傾向にある。
- ・「積極的に実施すべき」と回答した割合は39.5%に達しており、全体調査（31.7%）と比較して約8ポイント高く、若年層において民間活用への期待感がより強いことが伺える。

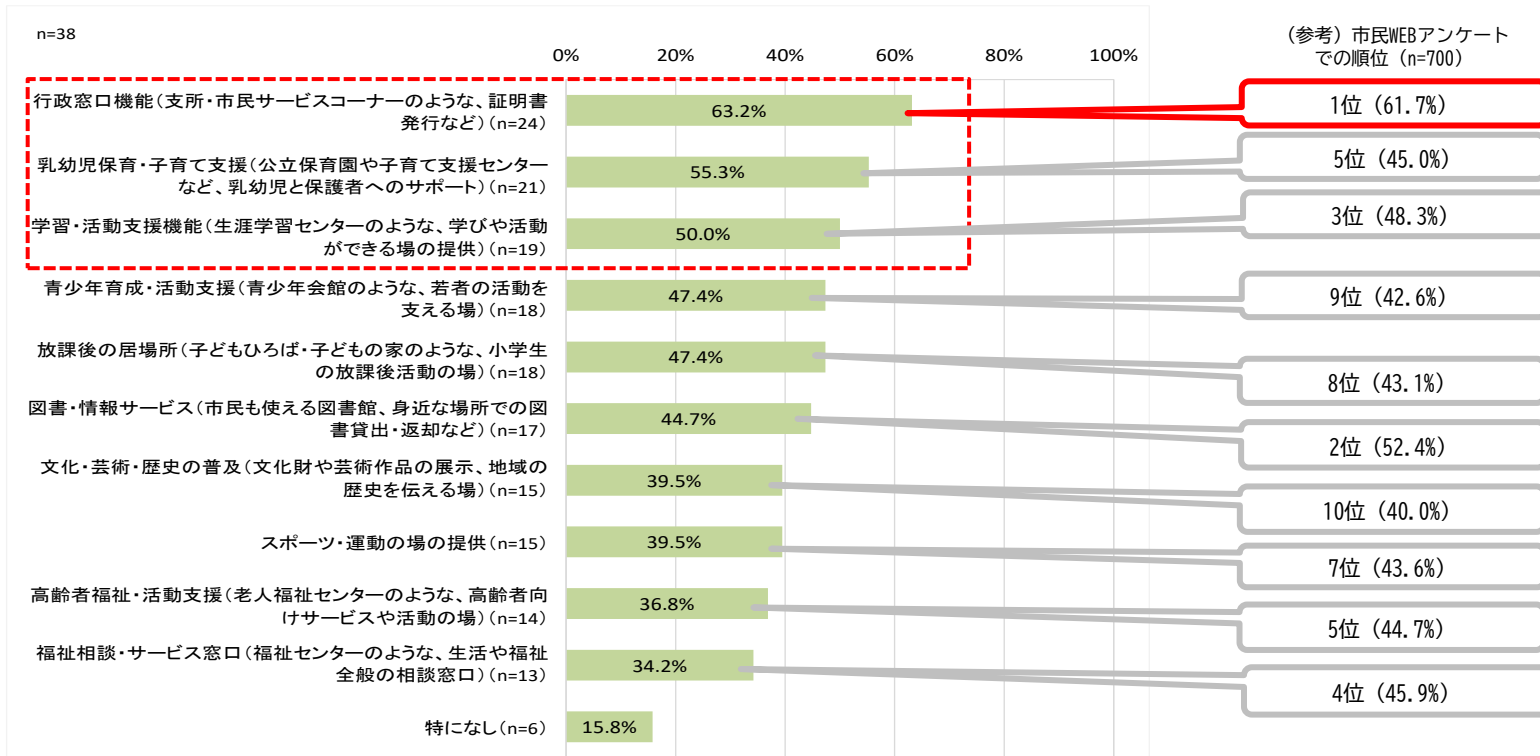


若年層（10代・20代）の意見把握について

Ⅱ．市民WEBアンケート調査及びLiqlidにおけるアンケート調査結果（抜粋）（① ②）

◆設問16 鎌倉市が民間施設を借りて行っても良いと思うサービス

- ・民間施設を借りて提供して良いサービスとして、若年層においても「行政窓口機能（63.2%）」が最多であり、利便性の高い場所での手続きに対する高いニーズが確認された。
- ・乳幼児保育・子育て支援（55.3%）」および「学習・活動支援機能（50.0%）」が上位に挙がっており、全体調査（n=700）の順位を大きく上回る結果となった。
- ・青少年育成・活動支援（47.4%）」についても、全体調査の9位から4位へと浮上しており、若年層は自身のライフステージや日常の活動に直結する機能について、民間施設等を活用した「身近な場所での提供」を強く求めていることが伺える。



若年層（10代・20代）の意見把握について

Ⅱ．市民WEBアンケート調査及びLiqlidにおけるアンケート調査結果（抜粋）（① ②）

◆設問20 自由記述（Liqlidアンケート10～20代の15人の中から抽出）

No.	自由意見（要約）	年代性別
1	他自治体の成功事例を参考に、時間をかけずに再編に取り組んでほしい。	（20代・女性）
2	声の大きい層の意見だけでなく、若者や子育て世代に目を向けた、定住促進や街の魅力向上に資する施策を展開してほしい。稼働の低い施設は積極的に集約化し、民間活力を導入すべき。	（20代・男性）
3	とにかく建物が古く、学習施設や図書館も充実していないため、利用する意欲がわからない。利便性の高い市外の施設を利用している現状がある。	（10代・女性）
4	市内5つの図書館を集約し、新しい図書館計画を推進してほしい。その際、複合施設化も含め、新しいニーズに応えるサービスを取り入れれば良いと思う。	（10代・女性）
5	かつては、今の市役所の場所に御成中学校があり、市役所は学習センターの場所にあったと聞いたことがある。そうした柔軟な配置を含め利便性を追求してほしい。	（10代・女性）

若年層（10代・20代）の意見把握について

Ⅲ. 第一小学校6年生を対象としたワークショップ（③）

◆学校と一緒にするといえると思う公共施設（上位3つ・順不同）・選んだ理由について（抜粋）

●生涯学習センター・図書館（地域機能の相乗効果）

「もっと色々な本を読みたい。好きな本に出会える。勉強に使える本が増える。色々な人と交流できる。図書館と学習センターと学校は、学ぶ施設としてまとめて使える。」

「学習センターがあれば、パソコンや料理をみんなでできる。落ち着く環境で勉強や活動ができる。習い事までの勉強時間に使えるそう。」

「学校で色々なことに挑戦できる。趣味が増える。むかしの遊びが楽しめる。地域の交流が深まりそう。みんなで集まりやすい。自由空間があると楽しそう。」

●保育園（家庭の利便性・教育接続の円滑化）

「保育園の先生になってみたい。小さい子とふれあえると楽しいと思う。一緒に給食を食べたい。お互いに学びが増えると思う。小さい子との接し方を学べる。」

「入学する前に小学校の様子がわかるから、小さい子も安心して入学できる。」

「兄弟が同じ場所にいれば、お母さんも大変じゃなくなる。親が大変でも、自分が弟を迎えに行ける。」

●温水プール（多世代多目的による通年利用）

「一年中プールの授業を受けられる。学校にプールがないので、夏に市営プールまで移動しなくてすむ。海に近いので、もし津波が来ても最低限泳げるようになりたい。」

「近くにプールが無いし、市民も集まれる。みんなで入ったら学校が楽しくなりそう。授業でも、リハビリでも使えたりすると思う。熱中症対策で外の運動ができないときにも使える。」

若年層（10代・20代）の意見把握について

Ⅳ．第一中学校3年生を対象としたワークショップ（④）

◆生徒たちが考える「建物を減らす方法」について（抜粋）

●施設の「複合化」と「集約化」

「用途が似ている図書館と学習センターを一つの建物にする。廊下やトイレを共有して維持費を抑える。」

「将来の街を支える若い世代の利用が少ない施設から優先して減らす。ニーズに合っていない施設は単体で維持せず、複合化して全体の利用率を高める。」

「市役所の中に税務署や支所、図書館などの機能を集約させ、一度に用事が済むようにする。」

「児童数が減っている地域では学校同士を合併し、余った建物を別の公共施設として使う。」

●民間活用とデジタル化

「図書館を電子書籍化して物理的なスペースを削減する。スマホがあればどこでも本を借りられるようになる。」

「使わなくなった土地や建物を民間企業に売却・賃貸し、法人市民税の収入を増やして管理費に充てる。」

「窓口業務をデジタル化し、大きな庁舎を不要にする。窓口に行く手間も省ける。」

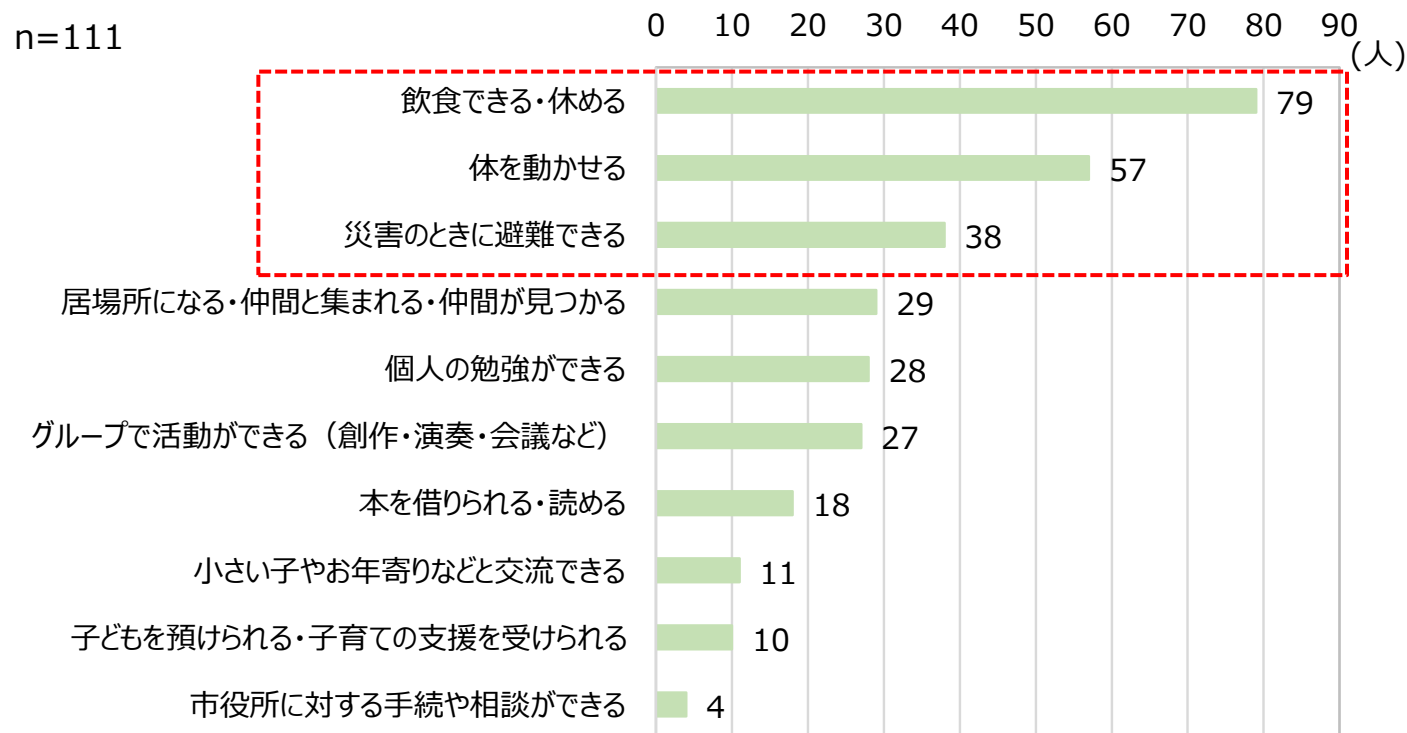
「個人や民間でも運営できる施設は条件付きで貸し出す。解体費用を抑えつつ地域の活性化をつなげる。」

若年層（10代・20代）の意見把握について

V. 第一小学校6年生を対象としたアンケート調査（⑤）

◆これからの公共施設（学校以外）にあったらうれしいと思うサービス（機能）を選んでください。

- ・「公共施設（学校以外）にあったらうれしいと思うサービス」としては、「飲食できる・休める」が最も多く、次いで「体を動かせる」、「災害のときに避難できる」サービスの順で回答が多い。

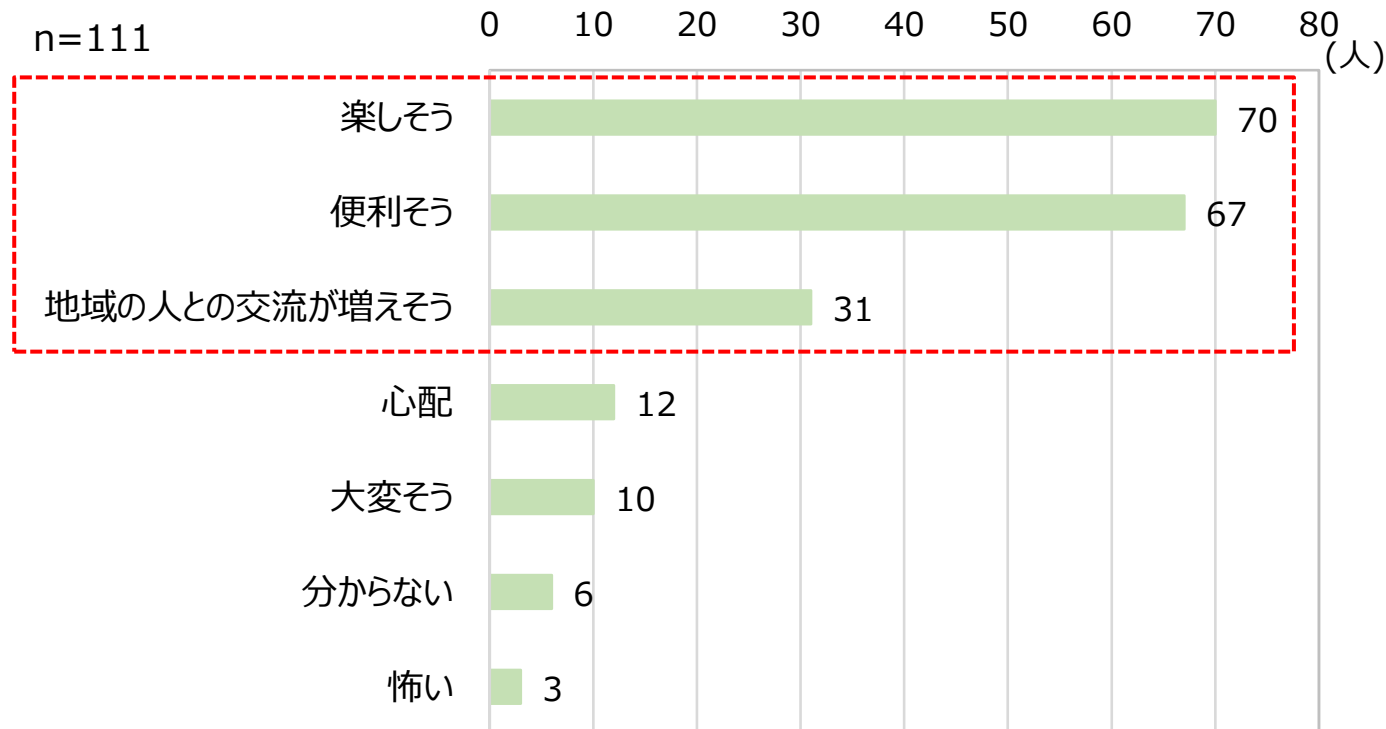


若年層（10代・20代）の意見把握について

V. 第一小学校6年生を対象としたアンケート調査（⑤）

◆もし学校が他の施設と同じ建物になるとしたら、どう思いますか？

- ・「学校が他の施設と同じ建物になるとしたら、どう思うか」としては、「楽しそう」、「便利そう」がほぼ同数で最も多く、次いで「地域の人との交流が増えそう」の順で回答が多い。



若年層（10代・20代）の意見把握について

V. 第一小学校6年生を対象としたアンケート調査（⑤）

◆今後、公共施設の建替えなどに使えるお金が少なくなる中で、公共施設はどちらがよいと思いますか。

- ・ 今後の公共施設のあり方に対する手法としては、「いくつかの施設を「ひとつにまとめた新しい建物」を使う」の割合が6割以上となっている。

